

第9回カタレ富山「2020 ファン・サポーターカンファレンス」議事録

■日時：2020年2月9日（日） 15:00～16:45

■場所：富山県総合運動公園陸上競技場 会議室

●開会挨拶 / 山田彰弘 代表取締役社長

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。また2019シーズン含め、ご声援、ご支援いただきましたこと重ねて感謝いたします。

成績は、4位となりましたが、それ以外の現状のクラブの状況をお話させていただきます。予算は、約5億円。収入の7割がスポンサー収入に依存しております。支出は、トップチーム強化費が5割。残り半分がその他の事業費となっております。

後ほども説明させていただきますが、中期経営計画については、10年後カタレ富山のあるべき姿を考え、直近3年間の目標を定めて策定しています。先日開催のFUJI XEROX SUPER CUPのような多くの方に熱狂いただけるようなサッカークラブを目指し、さらにはそうなりたいと思っております。

本日は、皆様から様々なご意見、ご提案等、忌憚のない意見を頂戴できればと思っております。よろしく願いいたします。

●2019シーズンのチーム強化総括 / 黒部光昭 強化部長

2019シーズンは、16勝10分8敗勝ち点58 得点54 失点31 得失点差23。

シーズンの前半は、試合を通してボールを保持し続け、優位な状況でサッカーをしたが勝ちきれず、勝ち点が伸びなかった。

後半は、ボールを保持しながらシンプルに裏を狙い、ゴールに向かっていく意識をすることで結果がついてきて、最終的に4位となった。

「攻撃的に、とにかく得点をとる」という目標の中では、ある程度の成果があったと思っている。2019シーズンは、昇格は叶わなかったが、内容含めていいチームであったと考えている。しかし、昇格できなかったという事実を受け止め、足りなかった部分を2020シーズンは埋めていく。

●2020シーズンチーム強化について / 黒部強化部長

安達監督の続投、そして選手27名でスタートする。2020シーズンは、2019シーズンをベースに相手を圧倒するポゼッションサッカーをしたい。昇格ではなく、安達監督が公言しているJ3優勝する。

2019中心選手だった前嶋選手、白石選手、脇本選手、榎本選手の4名チームを離れることとなったが、それに代わる、それ以上の戦力を獲得したと考えている。

FC町田ゼルビアから加入の戸高選手は、とにかく技術が高い選手。AC長野パルセイロから加入の松原選手は、セットプレーやロングスローが新しい武器になると思っている。

愛媛 FC から加入の林堂選手は、ラインコントロールなどリーダーシップをとれる選手。ヴァンフォーレ甲府から加入の岡選手は、経験がある落ち着いたプレーができる選手。また、2019 シーズン後半戦で流れを変えるきっかけとなった平松選手をアルビレックス新潟から完全移籍で獲得。京都サンガ F.C. から大野選手。福島ユナイテッド FC から武選手。法政大学から加入の松澤選手は、ポテンシャルが高い。もう少し体をつくってチームの軸になる選手になってもらいたい。

中盤から後ろの戦力としては、V・ファーレン長崎から碓井選手を完全移籍で獲得。法政大学から加入の末木選手。DF は、ヴァンフォーレ甲府からは田中佑昌選手。基本的にはサイド、キャンプではサイドバックでやっている。

GK は、びわこ成蹊スポーツ大学から加入の田中勘太選手。クラブとして大卒 1 年目から育ててチャレンジしていこうということで獲得した。

チームのバランスを考え、そして若手を育てたいということで川崎フロンターレから宮城選手を獲得。浦和レッズから池高選手を獲得。

先のことであるが、2022 シーズンより加入内定選手として、新潟医療福祉大より松本選手を獲得した。

最後に、新加入選手はもちろん大事だが去年からチームを支えてくれている選手たちも上手くなっており、全員で一丸となって優勝目指して戦っていきたい。

●中期経営計画について / 事業運営部 林拓弥マネージャー(以下、林 M)

今日はカタレ富山が考えていることを皆様に理解していただき、共に歩んでいきたいと思っている。

1年後3年後5年後クラブがどうなっていきたいかが会社として明確に絵を描けていなかったため振り返りが困難だったこと、また物事を決める意思決定の基軸として、活動の進捗管理の基盤、会社としての考えを社内はもちろん社外の皆様とコミュニケーションを取るツールとして、中期経営計画を策定した。

まず、カタレ富山の理念は「元気なとやまをつくる」ことだが、場所や空間である富山が元気とはどういう状態か？我々は「元気なとやま」とは富山に関わる人が元気であることで街に活気がある元気な場所空間になると考えている。つまり、心身ともに元気、特に心が元気な人を増やすこと。

カタレ富山の使命は「カタレ富山に関わる人に喜び興奮感動をお届けし、人々の気持ちを元気にする」ことだということを念頭において計画を策定している。

(中期経営計画に基づき説明)

● 質疑応答

Q. 山田社長の座右の銘や好きな言葉は？

A. 山田社長

一生懸命。努力は裏切らない。

Q. 2020 シーズンの3月22日のホーム開幕戦が福井開催であるが、県内開催出来なかったのか？また県内の魚津桃山などは検討しなかったのか？

A. 事業運営部 高嶋康平マネージャー（以下、高嶋M）

富山県総合運動公園陸上競技場（以下：県総合）の芝生改修の工期は、3月末まで。県総合で開催できるよう工期短縮も依頼したが、降雪面など様々な観点から短縮できなかった。県内開催ということで、魚津桃山と高岡スポーツコアを検討。魚津桃山は、陸上の検定工事で、2019年10月より芝生改修工事を実施している。2015シーズンは開催したが、現在のスタジアムライセンスのスタジアム基準では、基準を満たしていない。

高岡スポーツコアは、収容人数3,000名程度。諸室など設備的にもスタジアム基準を満たしていない。

2019シーズンホームゲームを開催させていただいた長野Uスタジアム、石川県の西部緑地公園にも依頼したが、Jリーグ、そして他イベントの開催等で不可であった。また関西や関東のスタジアムとの調整をしたが同様に不可であった。

その中で、福井県のテクノポート福井スタジアムが施設管理会社様と福井県サッカー協会様のご協力により開催可能という返事をいただきましたという経緯となっている。

Q. 中期経営計画の中の3年後に事業規模8億円という目標は達成可能なのか？

A. 山田社長

現在5億円のうち、7割の3.5億円がスポンサー収入で構成されており、県内の多くの企業の皆様に支えられています。しかし、ユニフォームの胸スポンサーが不在といった事実もある。

J2クラブの事業規模の平均が15億であり、8億円という金額を積み上げることで、J2リーグに定着、戦っていくためには必要だと思っている。

そのためにスポンサー収入以外でも、確保できる仕組みも整えていきたい。

Q. チーム強化と同様、フロントスタッフの増員など強化が必要だと思っている。

クラブとしてどう思っているのか？

A. 山田社長

ご指摘があったようにフロントの強化も必要であると考えており、様々な業務がある中で、その業務を精査し、外注等も含め検討し、質の向上を図っていきたい。

Q. U-12 が発足するが、アカデミースタッフが代わっている。継続的な指導、コンセプトという観点からアカデミー強化になるのか？

A. 野田アカデミーダイレクター

指導者が 5 名入れ替わったということで一貫指導ができていないのではないかとのご指摘については、新たに加わる 5 名の指導者は、アカデミー年代の監督を経験している育成年代のスペシャリストを交渉し来てもらうことになったので、指導の質に差が生じることはないと考えている。クラブとしても属人的な指導ではなく、コンセプトや指導内容を確認し、一貫指導をしたいと考えている。

トップチームにあがる選手を輩出することを目指す中で、まずは各年代別代表 U-17、U-19、U-20 の世界大会に選手を排出できるように指導を行っていく。

Q. 若手選手の引退試合などは予定あるのか？

A. 山田社長

引退試合開催については検討している。開催が決まれば発表させていただく。

Q. 駐車場案内人員として、J2 時は各所に配置されていたと思う。試合終了後には、渋滞緩和等を考えれば J2 時同様に配置したほうがいいのではないかと。

A. 高嶋 M

予算の都合上、J2 時の半分以下の人員配置となっている。ご指摘の通り、試合終了後については、誘導方法等も含め検討し、皆様がストレスなく帰れるように警備会社とも相談し、対応を検討していく。

Q. 3 年後の 8 億円というのは高い目標だと感じるが、根拠をもう少し明確にしてほしい。

A. 山田社長

8 億円という目標に関しては、J リーグ分配金が増額される。それでも足りない部分に関しては、スポンサー協賛メニューの見直し、チケット価格の見直しなども含め検討していく必要があると考えている。さらには、プラス要素としては入場料収入では、J2 に昇格することによってアウェイの集客が見込まれる。その他、グッズ売上増のためのラインナップの見直し等を行い、事業規模拡大を目指していく。

Q. 集客についてお客さんが減っているように感じる。試合以外のイベントや楽しさがもっと必要なのではないかと。

A. 林拓弥 M

2 年前より J リーグのクラブサポート部にも協力してもらい、ファンづくりについて「スタジアムホスピタリティ」、「ホームタウン活動」、「集客活動」という 3 つに分けて意見交換をしており、スタジアムホスピタリティは、「楽しいを最大化」という考え

方からイベントを考えている。試合観戦や結果も楽しいを最大化する要素であるが、それ以外の楽しさを作り出し、さらに充実させることで集客につながると思っている。ただ、試合観戦したことない人が来場したいと思えるようなイベントを考えるのは、かなり難しいとも思っている。したがって初めての試合観戦の時に楽しい、楽しかったと思ってもらえるイベントを作り上げ、充実させるということを考えている。今後も現状に満足することなく、様々なこと企画・実施し、お客様に楽しんでもらいたいと思っている。

また、「不満を最小化」するという考え方から、飲食やトイレで並んだなど不満や嫌なことなくすることも重要である。

ただ、試合に来てもらわなければ始まらないと思っている。このため、「集客活動」の取組みについては、「間接的な集客活動」と「直接的な集客活動」に分類しており、間接集客は、マスメディアでの発信、ビラ配りといったもの。その他ホームゲームイベントも間接集客として考えている。直接集客は、人に誘われたといったことで事前に何人来場するかがわかるということで、どちらかと言えば、直接集客に比重をおいて活動している。

「ホームタウン活動」は、「スタジアムホスピタリティ」や「集客活動」を実施して、来場のきっかけを整えたとしても、クラブが富山で認知、認められていないと観戦しようとならないと思うので、しっかりと地域活動に参画していくこととしている。したがって「スタジアムホスピタリティ」、「ホームタウン活動」、「集客活動」の全てを整えていくという考え方で今後も活動している。

Q. まちなかスタジアムの進捗はどうか？

A. 山田社長

サッカー専用スタジアムのほうがサッカー観戦にも適していると思っている。さらにはまちなかにあることが理想だとも思っている。まちなかスタジアムは、富山経済同友会が提言したものであり、進んでもないが計画がなくなったわけでもないと思っている。民間、クラブでスタジアムを建設するという流れは一部でできているが、行政主導で建設するのが一般的だと思っている。中期経営計画でもスタジアム建設といった計画に積極的に参画してくという計画を立てている。ただしスタジアム建設の機運を高めていくという部分では、皆様と協力し、実現につなげていきたいと考えている。

Q. スタジアムグルメの店舗が年々減っている。さらには富山の名物といったものを出店できないのか。

A. 高嶋 M

先程あったようにスタジアムホスピタリティを整えるという考え方の中で、スタジアムグルメは、重要な要素だと思っている。スタジアムグルメでお客様に楽しいを提供

できることがクラブの務めであるとも考えている。まず皆様がどのように考えているかを知ることが大事であり、アンケート調査を実施しました。

今後はアンケート結果を分析し、既存店舗との話し合い、さらには新規店舗を探すといった行程を踏んでいきたいと考えている。皆様が食べたいグルメ、スタジアムでしか食べることのできないグルメ、富山らしいグルメといったものを、2020 シーズンより皆様に提供したいと考えている。

Q. ファンサポーターとクラブの連携、コミュニケーションをもっと密にする機会を増やしてほしい。少なくとも、自分たちがクラブに意見をいえる窓口が欲しい。

A. 山田社長

貴重なご意見、ありがとうございます。皆様のご意見に向き合うというスタンスで取り組んでいきたい。

Q. 営業担当者がスポンサーに訪問する機会が少ないと感じている。スポンサーの立場としては、もっとコミュニケーションを密に図っていただきたい。訪問いただきお話しすることで新たなスポンサーを紹介もできるのではないかと思っている。

A. 山田社長

ありがとうございます。営業活動に頑張るので、ご紹介の件、よろしく願っています。

Q. 攻撃的なサッカーをされると言われたが、DF 登録が5名というのが少ないのではないか。

A. 黒部強化部長

2019 シーズンと比べると、DF 登録人数は1か2名減である。攻撃的サッカーをしたと皆様にわかっていただけたと思っている。その中で守備面でも失点の少なさはJ3 優勝の北九州に次いで2番目であった。攻撃的なサッカーをして、ボールを保持するといったことが、守備の時間を減らし、カウンターされにくいという結果も生んでいる。目指しているサッカーに守備スペシャリストを獲得しても、かみ合わないとも考えている。MF 登録であるが、2019 シーズンの前嶋選手や脇本選手のようにDF で出場することもある。したがって、監督とも今の選手の特徴を把握し、配置していこうという話をしている。

Q. 新体制発表会でお話があったテーマソングを作るという件はどうなっているのか。

A. 高嶋 M

先日演奏いただいたのは、富山県出身のバンドの PALLET (パレット) さん。パレットさんは皆様同様、クラブを応援したいという思いをもっていただいている。現状、応援ソングを2曲ほど製作してくれているので、準備ができ次第、発表します。

Q. 21 歳以下の選手を規定以上出場させる報奨金制度など J リーグの制度の活用についてどう考えているのか。

A. 黒部強化部長

規定は理解しており。クラブの該当選手は、宮城選手と池高選手。報奨金のために、若い選手の獲得、出場させるというのは、J3 優勝するという目標と直結しないと考えている。あくまでも優勝するためのチームを作り上げていく。

Q. 2019 シーズン失点が少なかったのは榎本選手の貢献が大きかったように思う。

その中で GK の齋藤選手と田中勘太選手をどのように評価しているのか。

A. 黒部強化部長

榎本選手が抜けたことで戦力が落ちたとは思っていない。岡選手は、経験もあり計算できる GK。もちろん出場する可能性が高いと思っているが、2020 シーズンは GK も育てていとも思っている。齋藤選手と田中勘太選手の将来性、伸びしろに期待し、さらには J2 を見据えたチーム編成で、GK にも選手間の競争、成長できる環境を整えるという部分を重要視した。

齋藤選手は、昨年 2 番手としてベンチに常に入ってもおかしくないくらいの選手。田中勘太選手は、J1 ポテンシャルを持っている GK。

2 名とも岡選手と競いながら、追い抜いていけるように頑張ってもらいたい。